

平成27年9月29日（火）



国土交通省
東日本高速道路株式会社

— 記者発表資料 —

けんおうどう おけがわきたもと しらおかしょうぶ
**圏央道 桶川北本 I C～白岡菖蒲 I C間が
10月31日（土）に開通**



圏央道の開通により、東名から東北道までがつながり、
企業活動や観光活性化を支援するストック効果※が期待

※ストック効果：整備された社会資本が機能することによって、継続的に中長期的に得られる効果

＜開通による主なストック効果＞

○日本の大動脈が直結、日本経済を支援

日本の経済活動の根幹を担う東名高速・中央道・関越道・東北道が直結し、
日本経済を支援

○物流施設や工場が進出する等、

企業立地が促進し、雇用や投資が増加

圏央道沿線地域の新規工場立地は平成17年から約5.4倍

今回の開通により、配送体制の効率化など、企業の活性化に寄与

○新たな広域ネットワークが形成され、観光交流の活性化が期待

埼玉県・東北道方面から湘南・鎌倉周辺への移動時間が約55分短縮

※開通時刻、開通式典の概要については、後日お知らせいたします。

発表記者クラブ

国土交通省記者会、国土交通省建設専門紙記者会、国土交通省交通運輸記者会
埼玉県政記者クラブ、茨城県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会
千葉県政記者会、都庁記者クラブ、神奈川県政記者クラブ、八王子記者クラブ、立川市政記者クラブ
青梅・西多摩記者クラブ、横浜市政記者会、横浜ラジオ・テレビ記者会、相模原記者クラブ

問 い 合 わ せ 先

国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所 TEL:048-669-1200（代表）

副所長 しのおや まさひろ 計画課長 ふじさか こうすけ
塩谷 正広 藤坂 幸輔

東日本高速道路株式会社 【報道関係専用】 関東支社広報課 TEL:048-631-0222

圏央道開通区間概要

●首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、首都圏の道路交通の円滑化、沿線都市間の連絡強化等を目的とした、都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの環状の自動車専用道路です。現在までに約230kmが開通しています。

●今回開通区間の概要

路 線 名：国道468号首都圏中央連絡自動車道（圏央道）

○開 通 区 間：桶川北本IC（埼玉県桶川市川田谷）～白岡菫蒲IC（埼玉県久喜市菫蒲町上大崎）

○開 通 日：平成27年10月31日（土）

○延 長：10.8km

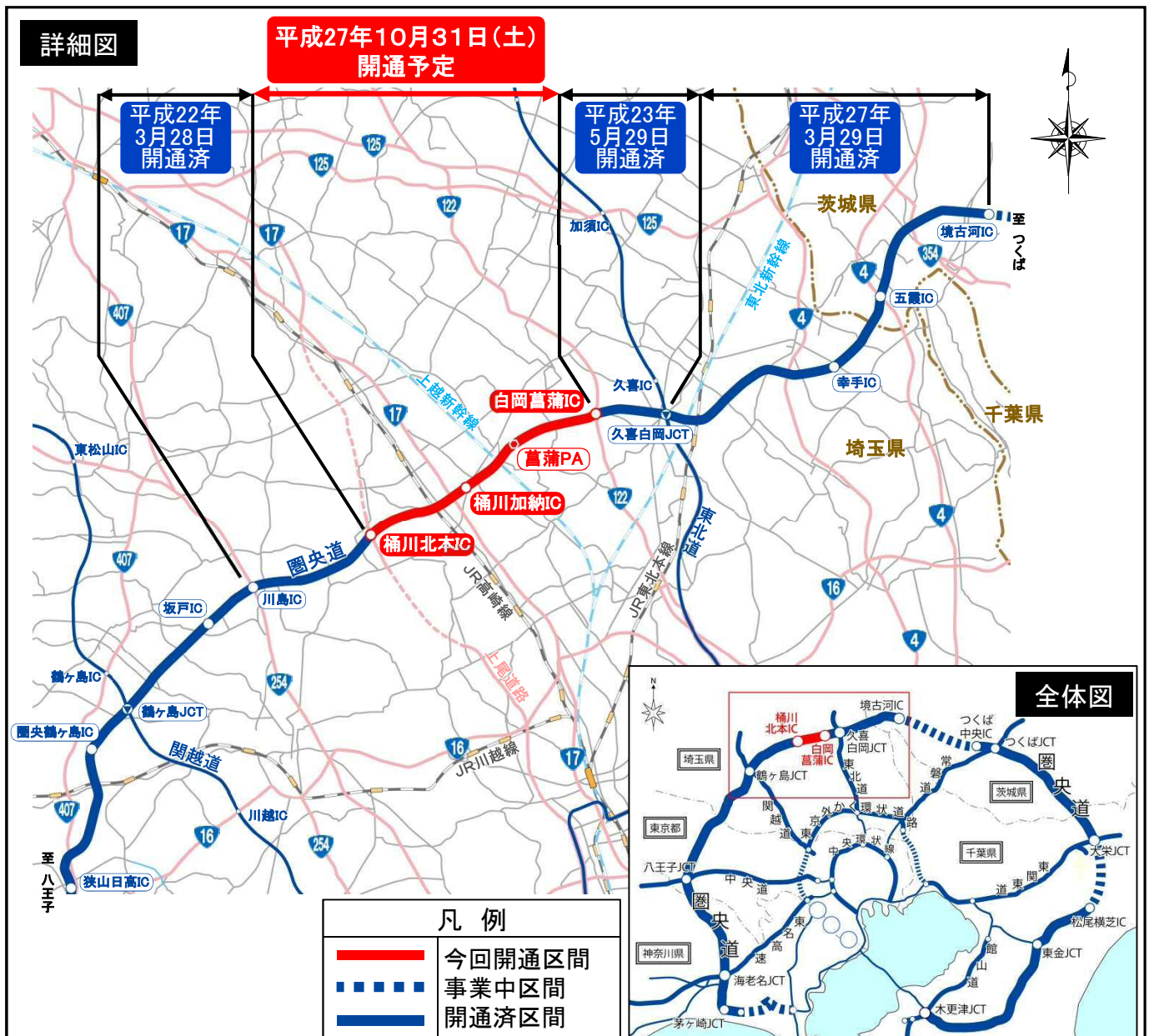
○車 線 数：4車線

○開 通 IC：桶川加納IC

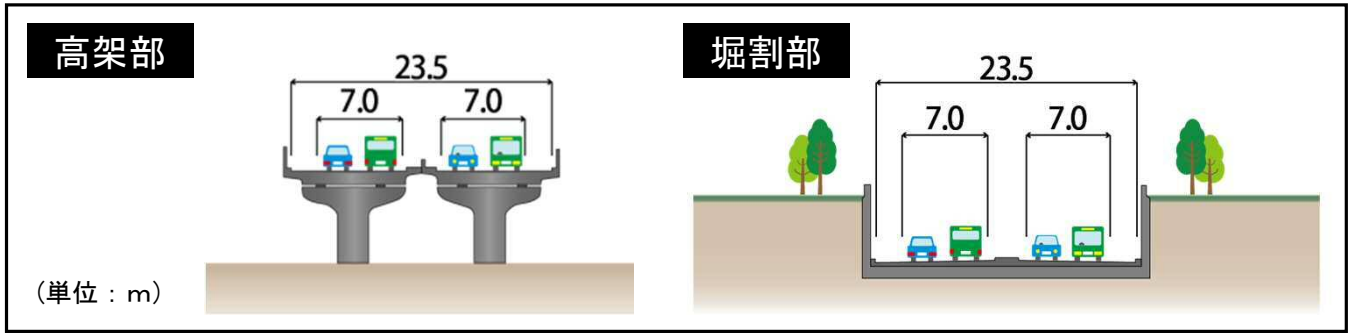
○アクセス道路：（主）川越栗橋線

○開通PA：菫蒲PA

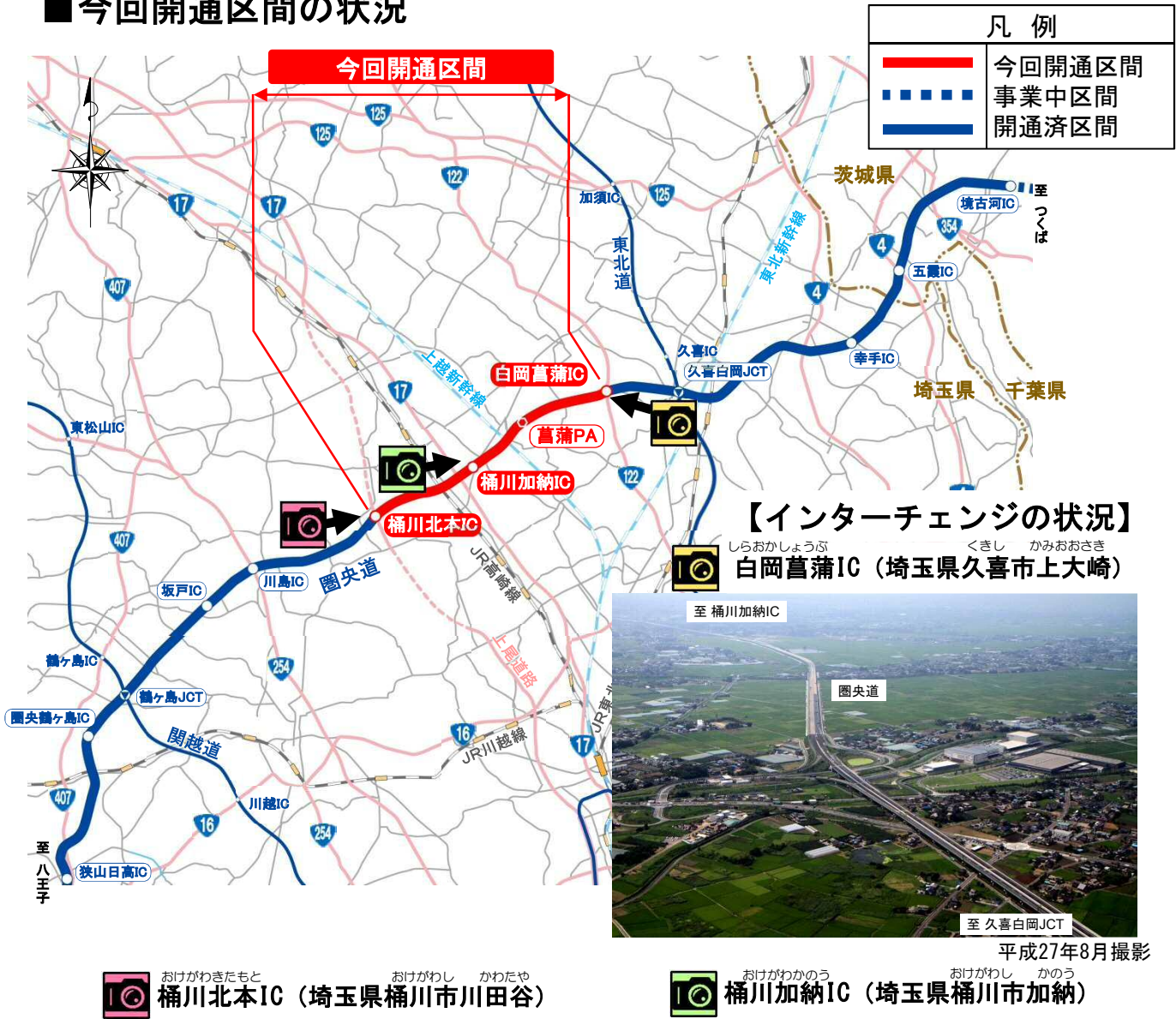
■今回開通区間の位置図



■今回開通区間の標準断面図



■今回開通区間の状況



平成27年8月撮影



平成27年8月撮影

効果① 日本の大動脈が直結、日本経済を支援

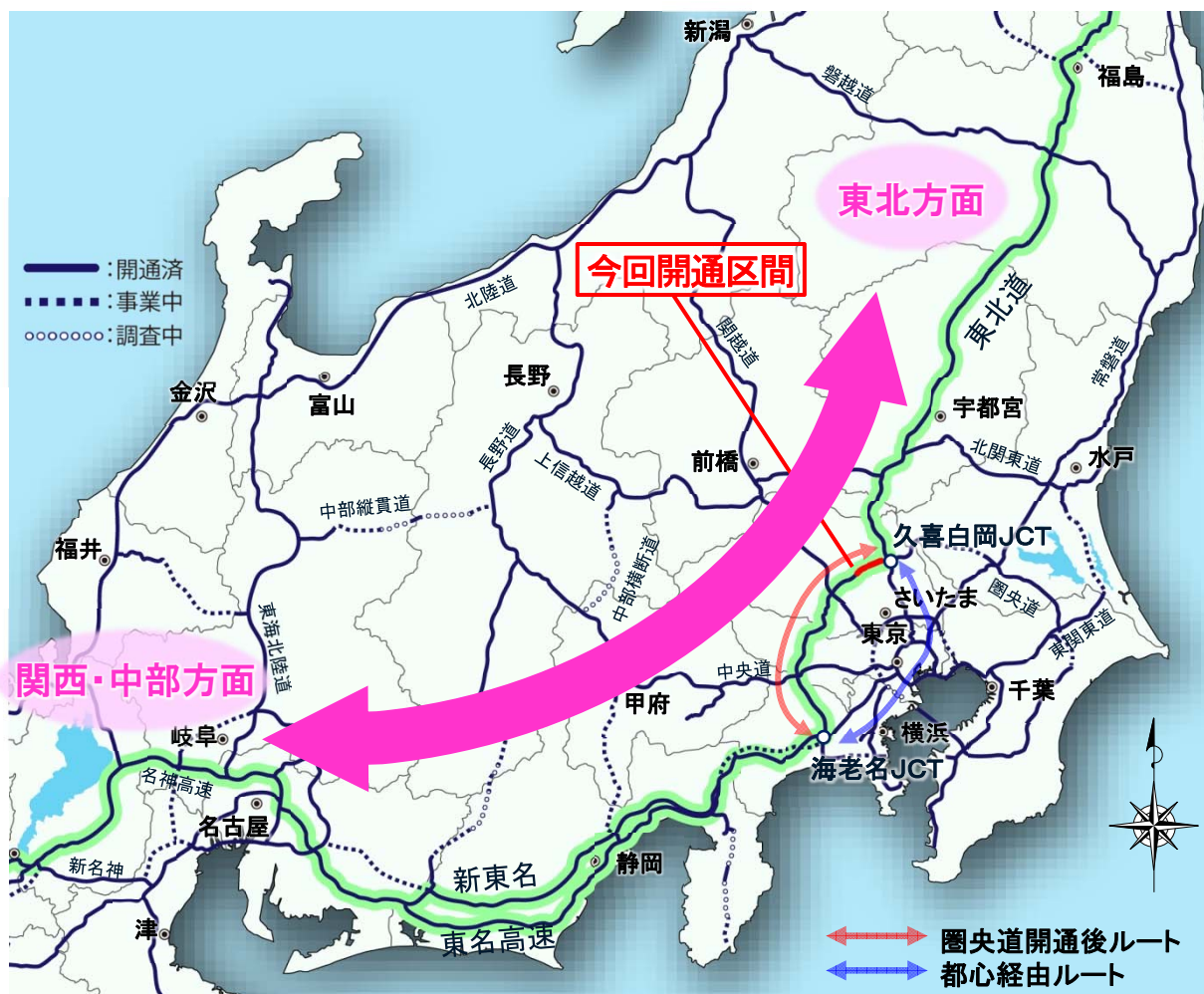
- 日本の経済活動の根幹を担う大動脈である東名高速・中央道・関越道・東北道が直結し、新たなネットワークが形成され、日本経済の循環を支えます。
- 関西・中部方面～東北方面間の輸送は、混雑する東京都心を通過せずに圏央道経由のルートが選択できるようになり、輸送時間の短縮が期待されます。

関西・中部方面と東北方面から
関東圏を通過する地域間物流
約4,800万トン/年

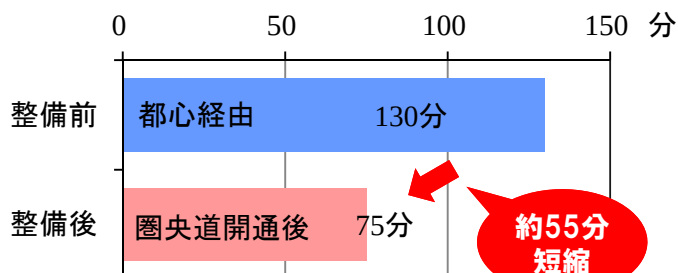


営業用普通貨物車の平均積載量(4.7トン)
で換算すると **約4万台/日**

出典：H24貨物・旅客地域流動調査の府県間流動（府県内々除く）等により算出。



久喜白岡JCT ～ 海老名JCT まで	都心経由 ルート	東北道→首都高速 →東名高速
	圏央道 開通後 ルート	東北道→圏央道 →東名高速

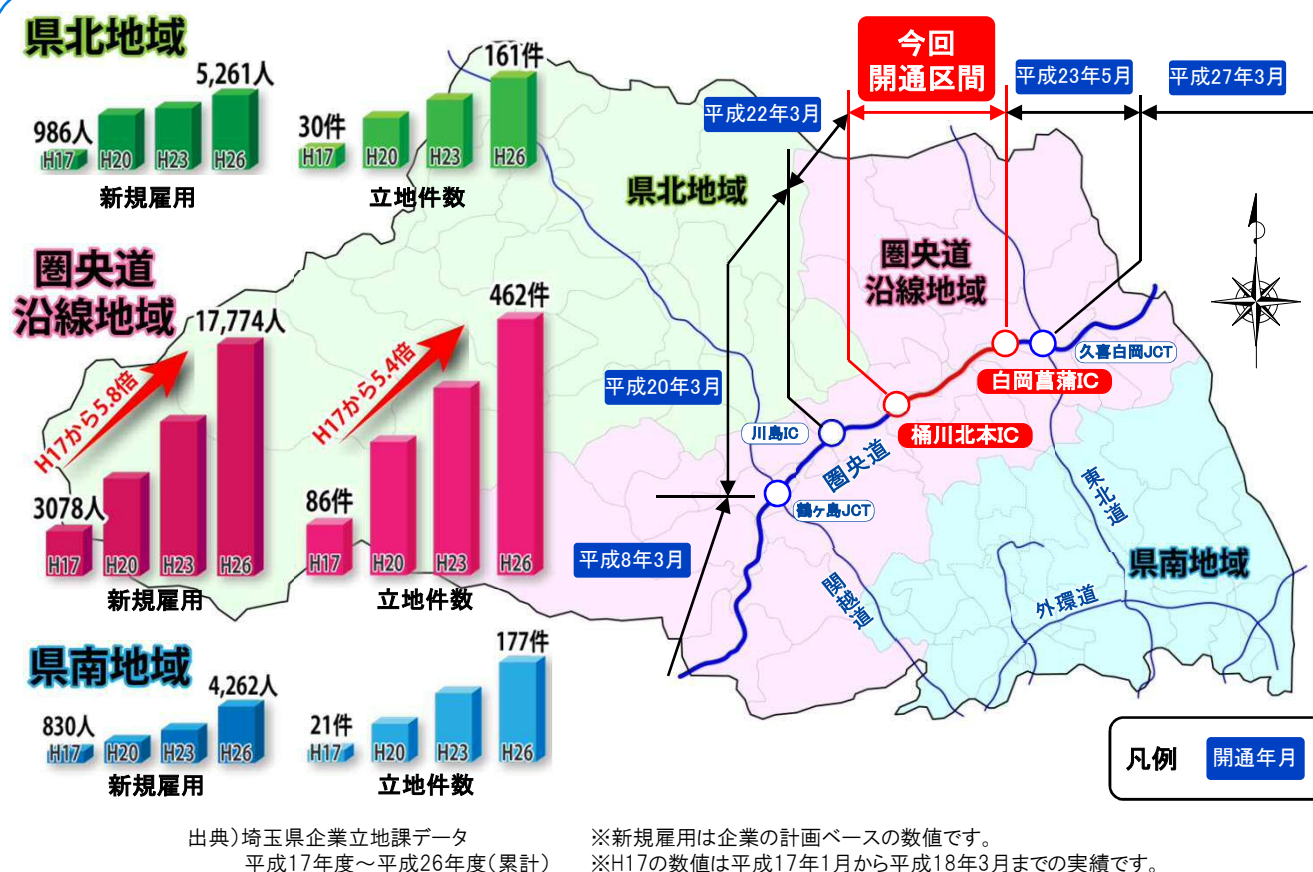


※都心経由ルート：H22センサス(混雑時平均旅行速度)による所要時間

圏央道開通後ルート：圏央道の供用区間は規制速度（80km/h）、圏央道の今回開通区間は設計速度（100km/h）による所要時間

効果② 企業立地を促進し、雇用や投資が増加

- 埼玉県では、圏央道沿線地域の新規立地が10年で462件となり、新規雇用が増えるなど、民需拡大・地域経済の好循環につながっています。
- 今回の開通により、配送体制の効率化など、企業の活性化に寄与。



菖蒲南部産業団地



沿線に立地する企業の声

YKK AP(株)埼玉窓工場

操業 平成23年7月

敷地面積 86,716m²

建物面積 延42,313m²

雇用者数(地元採用): 約150名

- ・ 圏央道開通は、完成品の施工現場への直接搬入、部材調達の両面で効率を上げるために必要。
- ・ 輸送力向上がサービス向上と事業の持続的な成長に繋がる。
- ・ 今回の開通による所要時間の短縮に対応した配送体制を整備する予定。

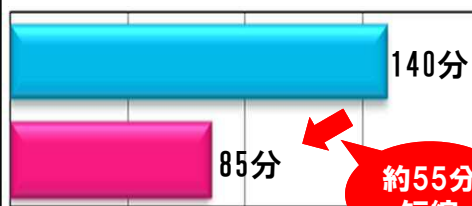
出典) 平成27年9月 ヒアリング調査
(大宮国道事務所調べ)

効果③ 新たな広域ネットワークが形成され観光交流の活性化が期待

- 観光地へのアクセスが向上し、湘南・鎌倉周辺がより身近になります。
- 圏央道の開通により、久喜白岡JCTから茅ヶ崎海岸までの所要時間が、約140分から約85分に短縮します。（約55分短縮）
都心の渋滞を回避でき、定時性も向上します。



久喜白岡JCT～茅ヶ崎海岸ICまで	都心経由ルート	久喜白岡JCT→東北道→首都高速→東名高速→圏央道→新湘南バイパス→茅ヶ崎海岸IC
	圏央道開通後ルート	久喜白岡JCT→圏央道→新湘南バイパス→茅ヶ崎海岸IC

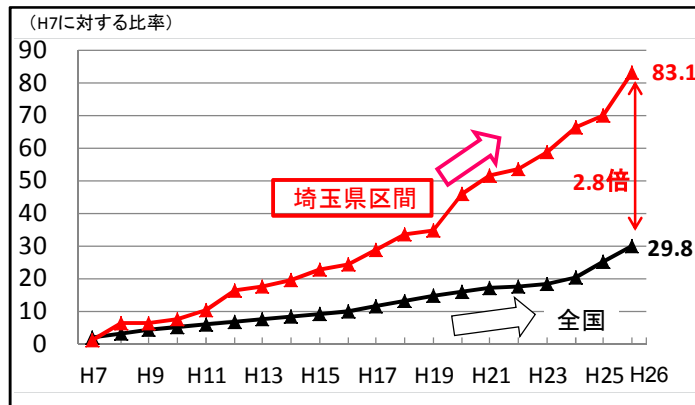


※都心経由ルート：H22センサス(混雑時旅行速度)による最短時間ルートの所要時間、圏央道、新湘南バイパスは制限速度（80km/h）
 圏央道開通後ルート：圏央道、新湘南バイパスの供用区間は規制速度（80km/h）、圏央道の今回開通区間は設計速度（100km/h）による所要時間

【参 考】 物流施設や工場が進出し、企業立地を促進し、雇用や投資が増加

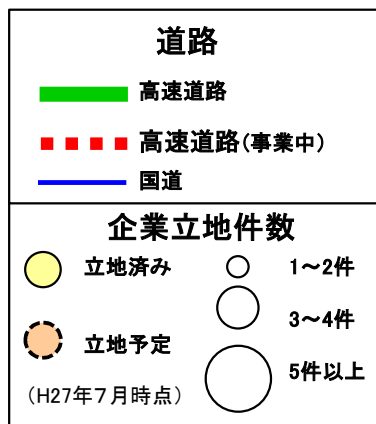
- 圏央道の整備により、圏央道沿線に物流施設や工場が進出する等、立地を促進します。

工場立地累積面積比率(全国と埼玉県区間)



出典:工業立地動向調査(経済産業省)

※H8年3月に圏央道が初めて開通した。(青梅IC～鶴ヶ島IC)



出典: H26年12月までの物流雑誌、ビジネス誌、新聞紙等に基づき
物流施設および工場をプロット

※H27年7月時点で立地済・立地予定を区分。

H22年以降に竣工(予定)の物流施設および工場を対象に作図

